

輸出事業計画

※申請者名：株式会社H.Eファーム品目：かぼちゃ

1. 輸出における現状と課題

【現状】

○ シンガポール

過去10年での輸出単価平均は257.6円/kgと国内卸売価格の170円/kgより、はるかに高い価格で取引されており、高価であっても、日本産かぼちゃのニーズがうかがえる。輸出額は年により変化するが、継続した販路開拓により安定した輸出が見込まれるものと考えられる。

○ 香港

日本産かぼちゃの輸出額が最も多い香港は、シンガポールより単価は安いものの、200円/kg前後で価格が安定していることが分かる。今後も安定的に高い需要が見込まれる。

○ 台湾

香港、シンガポール同様、定着市場でかぼちゃの人気の高いことが知られている。輸出規制が厳しいことから輸出額も鈍化傾向にあるが、今年は昨年の2倍にまで輸出額が増加し、過去10年の平均単価も227.2円/kgと安定的に高いことが伺える。

○ 韓国

単価は71.4円/kgと他国に比べ極めて低いことが分かるが、需要のあるサイズが、一般農家では廃棄する11～13玉（約760g～900g）であることが分かった。フードロスの観点からもこういったサイズも収穫することにより低価格でも利益創出が可能だと考えられる。

【課題】

○ 日本産かぼちゃの需要の把握

○ 香港、台湾、シンガポール、韓国における、月別小売価格情報の把握

○ 国内コスト削減

○ 自社産率を高める為の生産技術の研究と連携先への技術提供

○ 規模拡大体制の対策

○ 輸送中の腐敗率が高く、大きなクレームとなっている。

○ 現在の倉庫だけでは来期は収容不可能となることが懸念されるため、貯蔵倉庫設置を検討する必要がある。

○ 市場調査（香港、台湾、シンガポール）において、生産工程や安全性を重視する傾向にあり、販路拡大を視野に入れGLOBALGAP認証取得が求められている

2. 輸出事業計画の取組内容

○ 北海道総合研究機構 花・野菜技術センターのかぼちゃ多収栽培及び長期保存試験に参画

○ 各連携企業に小玉需要の時期を明確に伝え、加工に適さない廃棄されるかぼちゃの早期仕入れ～乾燥・調整～選果・箱詰め～出荷の形態を構築

○ 国内商社～検疫～通関～輸送～先国商社～販売店までの各国におけるコスト構造を分析し、中間コスト削減を模索

○ 青果用収穫が可能な収穫装置の導入

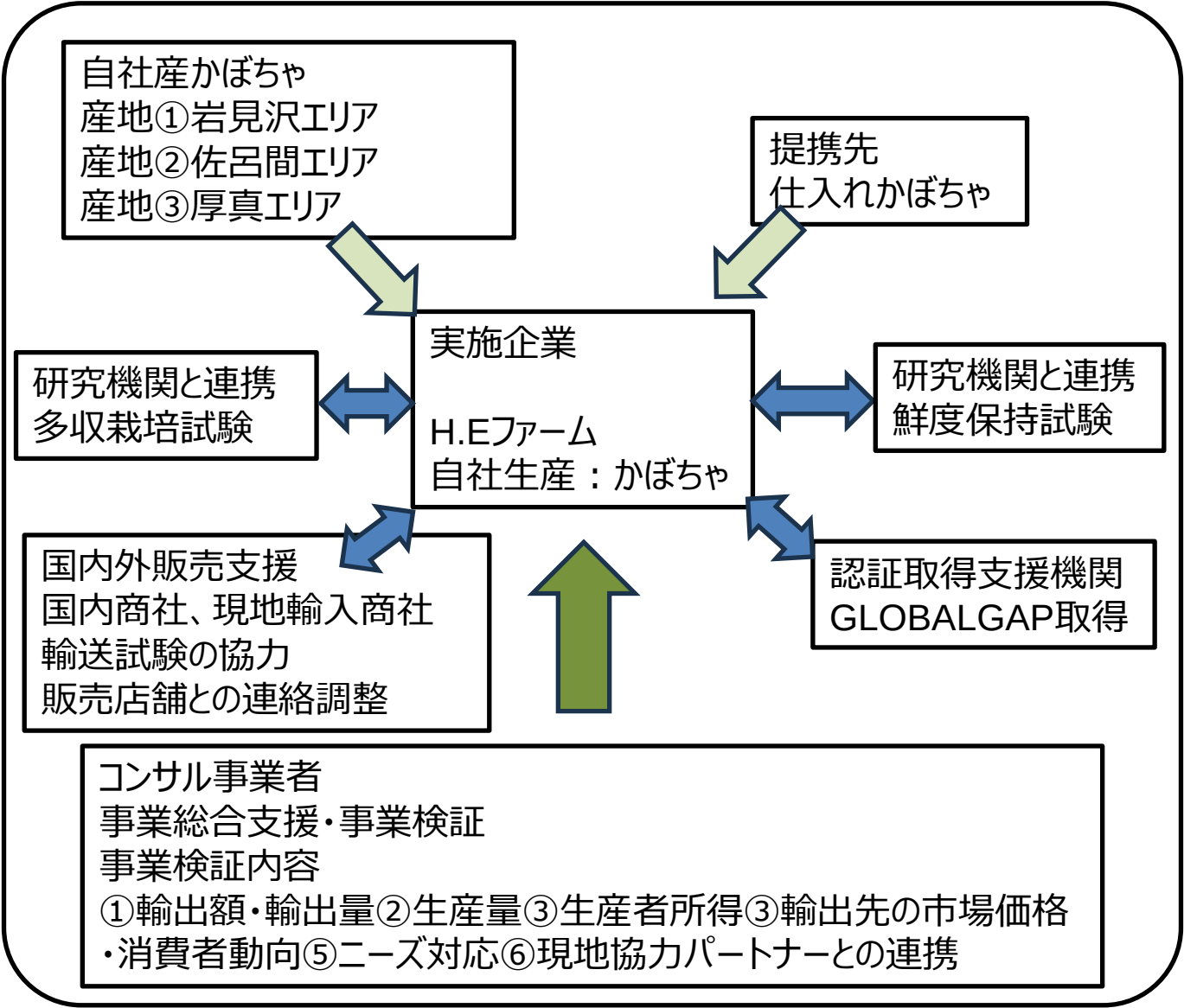
○ 令和6年度以降は、生育時～貯蔵時の罹病率減少による輸送時腐敗減少に取り組む。

○ 通気性がよく温度管理が可能な倉庫建設もしくは廃校利用など、既存資源を活用した貯蔵施設建設に取り組む。

輸出事業計画

※申請者名：株式会社H.Eファーム品目：かぼちゃ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

※輸出先国と輸出する農林水産物・食品の現状及び目標金額を記載すること

	現状（令和5年）	目標（令和8年）
輸出額（千円）	4,900	36,960
輸出量（kg）	30,000	270,000
輸出先国	香港、台湾	香港、台湾、シンガポール、韓国